円空と鵜飼の里

円空上人と弥勒寺

江戸時代、修行のために全国を行脚し、各地でひとびとのために仏像を彫った円空。その旅は30年にわたり、現在も全国におよそ5,000体の円空仏が残ります。

円空はその旅の終盤、池尻の地を訪れました。古代にムゲツ氏が築いた「弥勒寺」は、江戸時代には廃寺になっていたと思われます。円空は寺の跡に小庵を建てて自坊とし、弥勒寺を滋賀県園城寺の末寺として再興しました。

晩年をこの地で過ごし、64歳で死期を悟った円空は、弟子にあとを託して、長良川のほとりで入定（にゅうじょう）し即身成仏を果たしました。池尻の川岸には「円空入定塚」が建ち、その北の弥勒寺の山中には円空の墓が残っています。

小瀬鵜飼

弥勒寺遺跡群の南を流れる長良川では、毎年5月11日から10月15日まで小瀬鵜飼が行われます。小瀬鵜飼は、岐阜市の長良鵜飼とともに、「長良川の鵜飼漁の技術」として国の重要無形民俗文化財に指定されています。

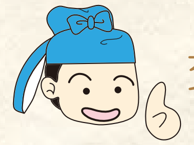
鵜飼漁は、鵜匠が鵜を巧みに操って鮎などの川魚を捕える漁の技術です。小瀬鵜飼では、夜の長良川を鵜舟で下りながら鵜飼漁を行う様子を、観覧船から間近に見学できます。篝火のはぜる音、鵜が潜る水音、鵜匠や船頭の声や船を鳴らす音…暗闇に繰り広げられる幽幻のひとときをお楽しみいただけます。

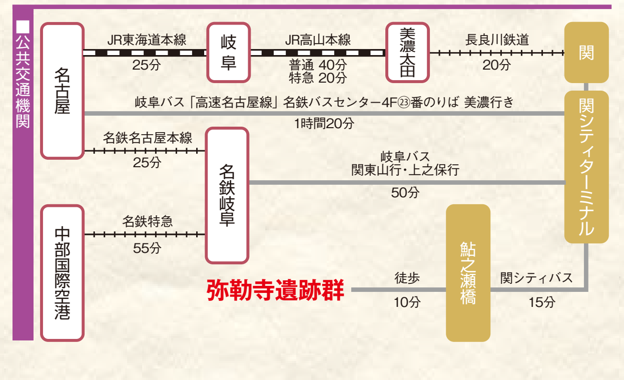
関市円空館　円空仏と弥勒寺遺跡群・小瀬鵜飼の展示館

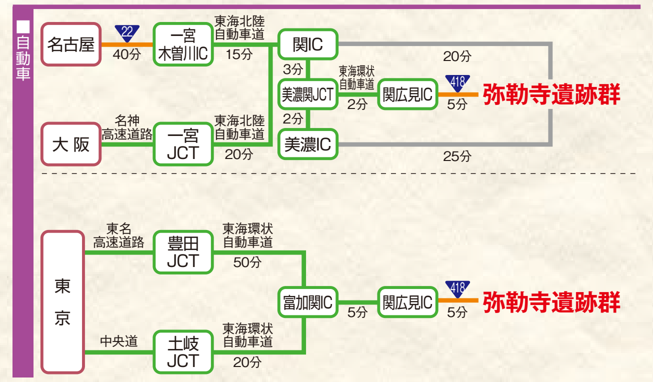
弥勒寺西遺跡にある「関市円空館」では、関市内に受け継がれた円空仏をご覧いただけます。また、弥勒寺遺跡群の発掘調査で見つかった木簡や硯、墨書土器などの出土品や、小瀬鵜飼に関する展示も行っています。

住　　所	関市池尻185
T　E　L	0575-24-2255
開館時間	9:00〜16:30
休 館 日	月曜日（祝日を除く） 祝日の翌日（土・日を除く）・年末年始
入 館 料	一般250円 団体（20名以上）200円 高校生以下無料

交通のご案内







関市文化財保護センター
関市武芸川町八幡1446-1 ☎ 0575-45-0500 FAX 0575-46-1221
URL https://www.city.seki.lg.jp/

2023.06.3000

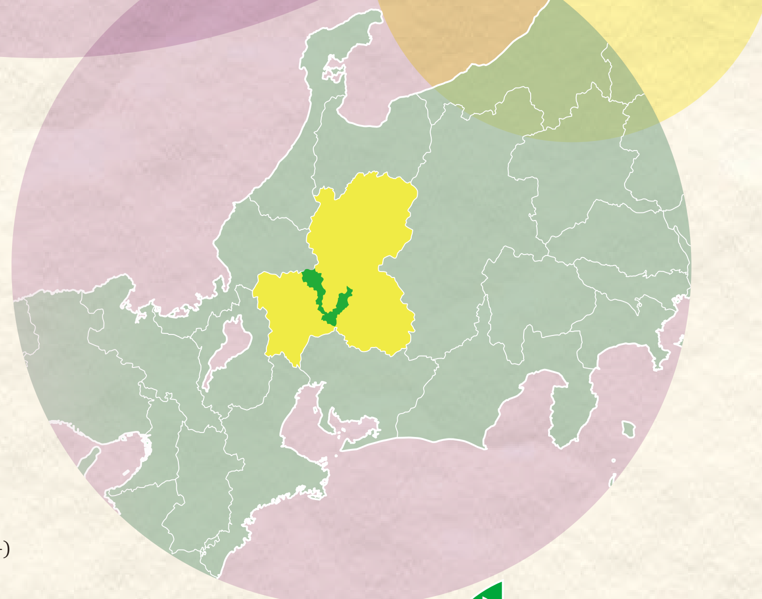
弥勒寺遺跡群

国指定史跡弥勒寺官衙遺跡群と弥勒寺西遺跡

池尻大塚古墳　弥勒寺西遺跡　弥勒寺跡　弥勒寺官衙遺跡（弥勒寺東遺跡）

古代の役所で働く人をイメージしたキャラクターです。弥勒寺西遺跡で「廣万呂」と書かれた墨書土器が出土したことから名づけられました。

ひろまろくん
（弥勒寺遺跡群イメージキャラクター）



岐阜県 関市

弥勒寺遺跡群

弥勒寺官衙遺跡（弥勒寺東遺跡）　弥勒寺跡　弥勒寺西遺跡　池尻大塚古墳

弥勒寺遺跡群は、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての遺跡のあつまりです。調査では、大型方墳、古代の寺院跡、役所跡、祭祀の跡が分かっています。

これらはすべて、古代武義郡（現在の関市、美濃市、郡上市（9世紀半ばまで）のあたり）に関係する遺跡です。古代武義郡を治めたのは、「ムゲツ氏」という一族。672年「壬申（じんしん）の乱」で大海人皇子（おおあまのみこ）（のちの天武天皇）の勝利に貢献した、身毛君広（むげつきみひろ）につらなる一族です。

※「ムゲツ氏」の姓は「古事記」や「日本書紀」など古代の史料にも登場し、「身毛」「牟義津」「武義都」ほか様々な表記があります。ここでは「ムゲツ氏」で統一します。

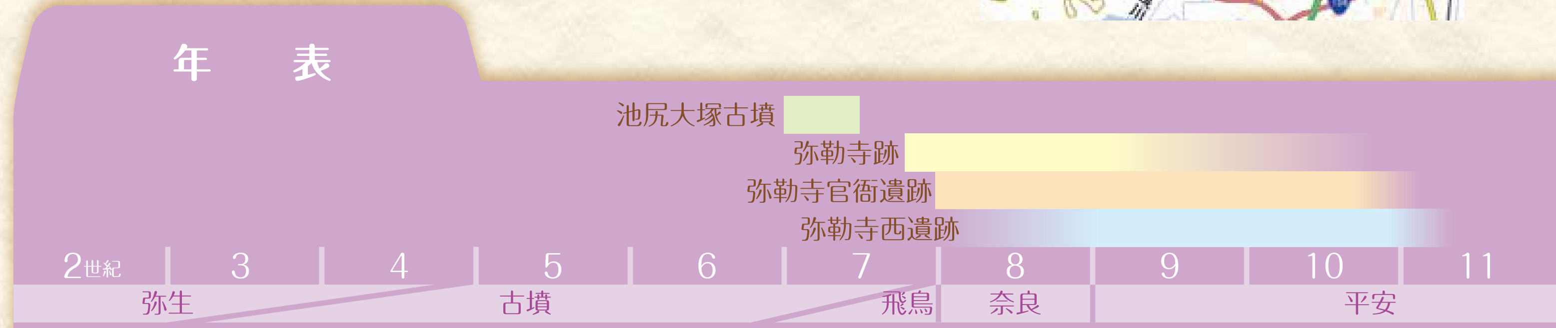
遺跡群は、岐阜県を流れる清流長良川の中流域・関市池尻にあります。池尻の山々と長良川に囲まれた東西800メートルほどのエリアに、関連施設がまとまって残っているのが特徴です。

弥勒寺遺跡群案内図

国指定史跡　弥勒寺官衙遺跡群

弥勒寺遺跡群のうち、「弥勒寺跡」「弥勒寺官衙（かんが）遺跡」「池尻大塚古墳」は、「弥勒寺官衙遺跡群」として国の史跡に指定されています。弥勒寺跡から北西約3kmに位置する美濃市大矢田の「丸山古窯（こよう）跡」も、「弥勒寺跡」の寺院建物の瓦を作った窯の一つとして、ともに指定されています。

年　表



池尻大塚古墳

古墳時代後期の大型方墳

遺跡群の西の端、池尻山の支尾根の麓にある、7世紀前半の方墳(四角形の古墳)です。古墳時代の後期に、ムゲツ氏の先祖を埋葬した古墳と考えられています。

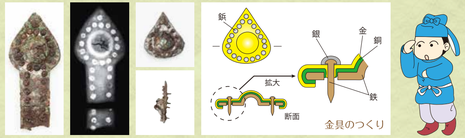
横穴式石室を持つ、一辺が23～25mほどの方墳だったと思われますが、長い年月で覆っていた土が失われて、埋葬場所である石室が地表に出た状態になっていました。同じように石室が露わになっている奈良県明日香村の「石舞台古墳」に様子が似ていることから、「美濃の石舞台古墳」とも呼ばれます。

現在一番上に見える巨石は、石室の天井石の一部です。石室は奥行き10m、高さは2.5mほどあり、部分的な発掘調査で須恵器・土師器や、鉄地金銅張飾金具が出土しました。

石室内部(発掘調査時)

鉄地金銅張飾金具

鉄の地金に銅を巻き、金箔を施した飾り金具です。木または革に鋲で留め、鋲の頭には銀箔が施されていました。しずくの形をした飾金具は全国で池尻大塚古墳からしか出土していません。用途も含め今後の課題です。



金具のつくり

調査と指定の歴史

2008(平成20)年　第1次調査　範囲確認調査
2011(平成23)年　第2次調査　石室調査
2016(平成28)年　国史跡に追加指定される
指定名称「弥勒寺官衙遺跡群 弥勒寺官衙遺跡 弥勒寺跡 丸山古窯跡 池尻大塚古墳」

弥勒寺西遺跡

水の祭祀場

古来より水は穢れを祓い清めるものとして、水にまつわる祭祀は各地でおこなわれてきました。弥勒寺西遺跡は、古代(奈良～平安時代)にこのような水の祭祀が営まれた場所です。弥勒寺跡の西にある谷で、関市円空館の建設のための発掘調査をしたときに発見されました。

調査では、1万数千点の遺物が出土しています。そのなかには、墨で書いた文字が残る土器(墨書土器)が200点以上、斎串や人形代などの祭祀具や木簡を含む木製品が約1,300点あります。

また、古代の谷川の跡をはじめ、橋や湧き水を導く仕掛け、方形に張り出した岸辺には、塀や火をたいた跡が確認されました。祭祀が盛んにおこなわれたことがみてとれます。

平安時代に編纂された法典『延喜式』には、宮中の儀式で立春の日に若水を汲む役割を「牟義都首」が担っていることが記されています。「牟義都」(ムゲツ氏)は律令国家の中で、水の祭祀を司る一族であったと考えられています。

墨書土器

木製品(斎串、人形代)

赤外線写真

木簡

方形の岸辺(発掘調査時)

祭祀イメージ図

調査の歴史

2002(平成14)年　第1次調査　祭祀・工房などの跡を確認
2006(平成18)年　第2次調査　建物・僧房などの跡を確認

弥勒寺跡

白鳳時代の寺院跡

ムゲツ氏の氏寺であり、武義郡の郡寺でもあったと考えられる、白鳳(飛鳥)時代の寺院跡です。

建物の配置は、正面に講堂、右手に塔、左手に金堂があり、「法起寺式伽藍配置」と呼ばれる方式で建てられています。現在も、塔と金堂の建物を支えた礎石の一部が地表に残っており、特に塔の中心の柱を支えた塔心礎はひときわ巨大です。

発掘調査では、仏像の頭髪をあらわす螺髪が見つかりました。螺髪は高さ3.9cmほどで、いわゆる丈六(約4.85m)の仏像が安置されていたと考えられます。また、複弁蓮華文軒丸瓦や凸面布目平瓦など、飛鳥の川原寺と同様の技法を使った瓦が発見されています。川原寺は、天武天皇(大海人皇子)に関わりの深い、大和(奈良県)にあった寺院です。政治の中心であった大和から技術者や最新の技術が伝えられ、この地域には珍しい瓦葺きの寺院が建てられたことが分かります。

螺髪

塔心礎

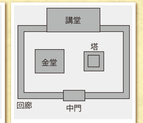
複弁蓮華文軒丸瓦

四重弧文軒平瓦

弥勒寺跡の伽藍配置

「伽藍配置」とは寺院の塔堂の位置関係で、寺院の性格や時代的特徴を示しています。現存最古の木造建築として知られる法隆寺の伽藍配置は、南向きの金堂が東に、塔が西に並びます。弥勒寺跡は、塔が東側、金堂が西側の配置で、「法起寺式伽藍配置」と呼ばれます。法起寺は法隆寺と同じ時代の奈良斑鳩の寺院で、伽藍配置にも弥勒寺跡と大和とのつながりがみられます。

法隆寺式伽藍配置



法起寺式伽藍配置

調査と指定の歴史

1930(昭和５)年　「史蹟廃寺塔跡」として岐阜県史跡に指定される
1953(昭和28)年　国立博物館・石田茂作博士による第1次調査
1956(昭和31)年　同　第2次調査
1959(昭和34)年　「弥勒寺跡 附 丸山古窯跡」として国史跡に指定される

弥勒寺官衙遺跡 弥勒寺東遺跡

古代武義郡の役所

「官衙」とは、古代の役所のことです。弥勒寺官衙遺跡は、奈良時代から平安時代中頃まで、武義郡の役所が置かれた遺跡として、国の史跡に指定されています。1994(平成６)年、弥勒寺跡の周辺を整備するための発掘調査で建物跡(正倉)が発見されたのを皮切りに、数年にわたる調査で官衙のさまざまな施設が明らかになり、遺跡を保護することが決まりました。地下にはいまも当時の遺構が残されています。

現在の公園整備では、「郡庁院」「正倉院」の一部建物を砂利敷きにして、柱穴の位置を柱で表示しています。ほかに「館院」「厨院」という官衙の施設があったと考えられています。

郡庁院イメージ(成立当初)

郡庁院

政治の中心となる建物があった区域です。正殿と東西の脇殿が、塀に囲まれて建っていました。二度の建て替えが行われ、現在の整備では官衙成立当初(８世紀初頭～後半)の建物・柱跡を表示しています。調査で、役所を象徴する円面硯が出土しています。

正倉院

「租・庸・調」の「租(米)」を収めた高床式の倉庫群があった区域です。8世紀前半頃には９棟が並んでいたとみられ、現在整備した建物跡・柱跡はこの時期のものです。その後の建て替えでは、倉庫の巨大化や、掘立柱(地面に直接柱を立てる)から礎石建ち(礎石の上に柱を立てる)への変化がありました。発掘調査では、炭化米がまとまって発見されています。

正倉イメージ

炭化米

円面硯

正倉の礎石・基壇(発掘調査時)

官衙成立以前の遺跡

弥勒寺官衙遺跡では、官衙以前の大規模な建物の遺構が発見されています。壬申の乱より以前からムゲツ氏が拠点としていた場所であると考えられています。

調査と指定の歴史

1994(平成６)年　公園整備のための調査で倉庫群(正倉跡)が発見される
　　郡衙の可能性により、弥勒寺東遺跡発掘調査を実施
2007(平成19)年　「弥勒寺官衙遺跡」として国史跡に指定される
指定名称「弥勒寺官衙遺跡群 弥勒寺官衙遺跡 弥勒寺跡 丸山古窯跡」